

1 目的と概略

1.1 教育の情報化の果たす役割

情報化の進展により、教育の情報化も急速に進みつつあります。文部科学省の「教育の情報化の推進に資する研究 (ICTを活用した指導の効果の調査)」(2006年)によれば、ICTを活用した授業を行うと、授業後客観テストの結果が高く、また、児童生徒の知識・理解や関心・意欲を高めることも明らかになっています。人づくりは地域活性化の根本をなすものであり、このような高い効果を有する教育の情報化は重要な役割を果たすことでしょう。

また、昨今問題となっているいじめ等の教育課題に対応するためには、教員が子どもたちとしっかりと向き合い、一人ひとりの子どもに関する情報を共有し、協力して指導に当たることが必要だと言われています。このようなことを可能にするため、ICTを活用することで事務的作業などの教員業務 (校務) を効率化して、子どもたちに向き合って指導する時間を増やすと共に、子どもたちの見取りを共有し複数の教員が協力して一人ひとりの子どもに応じたよりきめ細やかな指導を行うことができるようにしようと、校務の情報化も進められつつあります。

このような教育の情報化には、下図の①～③ように3つの分野があり、総務省でも以下のような取組を行っています。

教育の情報化の3分野

総務省の取組



図1-1 教育の情報化の3分野と各事業

総務省においては、授業の情報化 (学びの場における情報通信技術の活用) 分野について、文部科学省と連携し、すべての児童生徒にひとり1台のタブレットパソコン (PC) を配り、すべての普通教室に電子黒板と無線LAN等を配備したICT環境を構築し、その効果的・効率的な利活用を図ることを目的とする「フューチャースクール推進事業」を実施し、主として情報通信技術面での実証研究を行って、教育の情報化を推進しています。



図1-2 タブレットPCと電子黒板で学ぶフューチャースクールの様子

また、校務 (授業以外の教職員の業務や教育委員会の業務、学校と保護者・地域との連携など) の情報化分野については、総務省の外郭団体である一般財団法人全国地域情報化推進協会 (APPLIC) のアプリケーション委員会教育ワーキンググループ (教育WG) が、これからの学校に求められる校務の情報化の在り方について検討し、最先端技術であるクラウドコンピューティングの教育分野における応用や、全国標準化などについて検討を進めています。この教育WGの活動については、以下に述べることなどから、現在、大いに注目を集めています。